

平成25年度

山岳自然保護の集い（中央大会）

報告書

第37回 公益社団法人日本山岳協会 自然保護委員総会

守ろう、伝えよう、
山岳の自然と文化



公益社団法人

日本山岳協会

実施報告書

件名	平成 25 年 公益社団法人 日本山岳協会 山岳自然の集い 中央大会 (第 37 回自然所保委員総会)		
会期	平成 25 年 9 月 14 日 (土) ~ 16 日 (月 祭日)		
会場	埼玉県立小川げんきプラザ (埼玉県比企郡小川町木呂子)		
日程	9 月 14 日	午後	開会式、総会、総合セッション (自然保護全国発表)
	9 月 15 日	早朝	モーニングウォーク (雨天のため室内にて施設内森林の自然解説)
		午前	個別セッション (分科会形式の課題討議、まとめ)
		午後	公開イベント 小鹿野こども歌舞伎 (三人吉三巴白浪 大川端出会之場 小鹿野町歌舞伎保山会指導)
			講演 ツキノワグマを通して見た山岳自然について 長縄 今日子 氏 「山はみんなの宝」憲章の制定と参加者の皆さんへの期待 上 幸雄 氏 知知夫国と嶽 (たけ) やま (武甲山) 浅見 豊 氏
		夕刻	ナイトセッション 宇宙創成から現在の日本列島まで 藤井謙昌 氏 星空ウォッチング (雨天のため室内レクチャー) 齊藤次江 氏
	9 月 16 日		両神山エクスカーション (荒天のため中止) 高尾山エクスカーション (コース変更にて実施) 長瀨地質探勝エクスカーション (コース変更にて実施)
参加	22 都道府県、107 名 (公開イベントの一般を含む参加者総数 132 名)		
成果	総会においては、山岳自然について 22 都道府県からの活動発表及び課題討議を行い、自然保護活動への一層の活性化を確認し合った。総会に続いて開催した芸能講演を一般公開としたことで、開催地 (関東地区の中心から大会テーマの「守ろう・伝えよう 山岳自然と文化」の発信を強調付けた。2 泊 3 日の大会、参加者の好評価を得て、今後の全国活動に向け資する機会を提供できた。		
後援	環境省、埼玉県、小川町、小鹿野町、(株) 山と溪谷社 (日本山岳遺産基金)		

謝辞： おかげさまで、この大会を盛況のうちに閉幕しました。生憎の天候でスケジュールを一部変更いたしました。ご後援・ご協力を頂きました各方面へお礼を申し上げます。特に今回の開催に当たりまして、埼玉県山岳連盟をはじめ、小川町、小鹿野町、小鹿野町歌舞伎保存会、県立小川げんきプラザの地元の皆様には暖かくご支援を頂きました。重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

概要

台風接近・通過のため第二日早朝以降が雨天。第三日には台風の中心が埼玉県中部を通過で、両神山エクスカーションを中止するなど、スケジュールの変更があったが、大会を事故もなく閉幕できた。大会の概要を上記日程順にて、以下の通り報告します。

徳永副委員長の開会宣言の後、主催者・来賓から次の通りあいさつがあった。

開会式の挨拶要旨：

主催者挨拶 神崎忠男会長

商業登山のまん延で、人々が山へ登る目的が多様化し、伝統的で高邁な登山モラルが失われてしまったように思います。自然保護をやることにおいて、心のケアとマナーとモラルにつながるような活動を期待したいかなと思います。日本山岳協会は4月1日に公益社団法人になりました。社会に一員としての責任、使命、社会貢献、公益事業をしっかりと整えていかなければいけない。それが変わると思う。それより大切なのは我々役員や会員の意識の改革だと思う。我々の意識が公益性を求めるように環境づくりをしてまいりたい。



来年、広島県でアジア山岳連盟の20周年を開催することにしました。これにもまた皆さんにご協力していただければ幸いかなというふうに思っています。この9月の終わりからアジア山岳連盟の総会があります。来年の春の理事会は香港。来年の秋の総会は日本。広島県で平和というテーマで、来年の秋に総会と20周年式典をやりたいかなと思います。日本の山岳会が一丸になって、計画を進めていきたいと思っています。ご指導ご協力のほどよろしくお願いいたします。

委員長挨拶 石倉委員長

昨年は9月に北海道で総会を行いました。今年は4月からの公益法人化を記念して、中央でやろうということで進めてきました。日山協自然保護常任委員15名を中心に、

1都7県の自然保護委員会から募ったメンバーを加え、実行委員会で企画してきました。今回の大会運営もその実行委員会が主管するというで行っています。

3日目のエクスカーションは、入山料が問題の両神山・白井差コース。年間260万人の登山者が訪れるオーバーユーズが問題の高尾山コース。日本地質学の発祥の地、長瀬のコースの三つに分かれて行きます。尚、日山協自然保護常任委員の活動は、その都度登山月報と今年4月から開設したネットブログで報告をしています。見ていただければと思います。



日本山岳協会は、UIAA（国際山岳連盟）とUAAA（アジア山岳連盟）に加盟しております。そのUAAA（アジア山岳連盟）の総会と創立20周年記念式典が来年11月21日から6日間広島で開催が予定されています。来年の自然保護委員総会もそれに合わせてその時に広島で開催することを今検討中ですのでよろしくお願いいたします。

開催地岳連あいさつ 森下埼玉県山岳連盟会長様

山岳自然保護の集い、小川町げんきプラザにお集まりいただきましてありがとうございます。また、この開催をご支援していただいた諸団体に感謝を述べたいと思います。どうもありがとうございます。この会の実行するにあたり関東地区山岳連盟、自然保護委員会の方々にご苦勞様でした。埼玉県山岳連盟の自然保護委員会を中心にご準備をさせていただきました。御礼申し上げます。みなさまにご挨拶出来ることを光榮に思っております。小川町は和紙の里、埼玉県の象徴といわれているとことです。詳しくは、小川町町長様がいらしておりますので、そのときにまたご紹介させて頂ければとおもいます。

来賓あいさつ 脇坂 埼玉県環境部みどり自然課長様

今回の大会、開催されますことに心からお祝い申し上げます。全国からお集まりいただきまして、ありがとうございます。大変うれしく思っています。はじめに、皆様におかれましては、日ごろから安全登山や自然環境保全にご尽力をいただいております、行政に携わる人間としまして、心から御礼申し上げます。

最近では自然回帰、山登りをする若い人が増えてきた感じがします。服装がカラフルになってきたなと思います。私は主としてテントを使わず山小屋を利用しているのですけれども、若い人が増えてきたこと非常にうれしく思います。またその反面、山で遭難が起きてございますし、植物の踏み荒らし、ゴミのポイ捨て、そういったこともございまして、安全登山での啓発が非常に重要だなということで、私ども関係部署として、出来る限りのことをしているところでございます。



埼玉県には、両神山、雲取山をはじめといたしまして、標高 2000m 前後の山がございまして、それから奥武蔵、外秩父、東京に在住している方の絶好のハイキングの場所ともなっております、ハイカーで休日は賑わっているところでございまして。比較的的低山な埼玉ではございまして、遭難も多くて、今年は両神山と雲取山に実際に死亡事故が起きた場所の地図作りまして、登山口などに配布し、注意を喚起しているところでございまして。

また埼玉の山のことを考えますと、全国のほかの地域もそうですが、鹿の食害も非常に深刻になってきていて、雁坂峠周辺も相当樹木が食べられていまして、鹿の食害対策も必要だなというところで考えているところでございまして。

そんな中、埼玉県では自然公園指導員というボランティア活動をお願いしております。日本山岳協会自然保護指導員と合同で活動していただいているのですが、自然環境の啓発及び促進、あるいは経験の乏しい登山者への助言等ご活躍いただいております。この指導員に埼玉県山岳連盟から多くの方がご推薦いただいております、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

日本山岳協会の自然保護委員会を中心として、活動していただいている方に関しましても改めて、感謝と敬意を表したいと思います。

最後になりますが、山を愛して自然を愛するみなさま方がこのすばらしさを未来へ伝えるために、自然保護について考えられる大会と趣旨を伺っています。この大会を皆様にとっていいものになりますことを願っています。日本山岳協会、都道府県山岳連盟のますますのご発展、みなさまが充実した山行が続けられますこと申し上げて歓迎のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

来賓あいさつ 笠原 小川町長様

今日は、日本山岳協会の大会が、わが町で開催されることを光栄に思います。各地から来町の皆様方に心から歓迎を申し上げます。皆様方におかれまして、自然保護あるいは事故防止等の啓発活動にご尽力をいただきまして改めて敬意を表したいと思います。私どもの高校生の頃は山岳部がございまして、限られた人だけの山登りであったように私は思っていました。その後、時代が流れる中で、登山道ができました。昨今は空前の登山ブームで、夕べもテレビで100名山の放送がありました。山ガールという言葉も覚えしました。そのこと自体は非常に良いことでうれしい現象ですが、事故や自然保護などの問題が出てくる。そういったことで、皆様はこういった研修会をしていますが、認識を深めて、強めていただきますようお願いしています。



小川町で一番高い山が876mで、筑波山と同じ高さです。いくつかハイキングコースがあります。町の山には空き缶などゴミすても多いです。地元の山で事故が何回かありました。鎖場を付けました。また、遭難もありました。ヘリコプターで救出しました。しかしその人は助けられたのにあっさりとしていて迷惑をかけたと思っていませんでした。そういうこともあって皆様の役割が一層強くなりました。この研修を生かしまして、各地にもって帰っていただければと思います。

小川町は小さな町ですけども酒蔵が3つ元気にやっています。機会がありましたらご堪能いただければと思います。ありがとうございました。

議事に入り、松隈副委員長から、常任委員会の事業報告及び、大会テーマの説明が行われた後、次期開催県として、広島県山岳連盟が紹介された。

議事後、休憩を入れ、総合セッションとして参加都道府県から自然保護活動状況について発表が次の通り行われた。

総合セッション（自然保護全国発表）

徳永副委員長を座長にして行われた全国発表の要旨は次の通り。

愛知 杉本

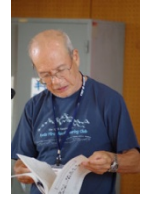
伊吹山の南東稜や猿投山で自然観察会をやりました。また、昨年からは始まった鈴鹿山系連絡協議会へ参加しています。この連絡会。これは鈴鹿山系に隣接している県などが参加して、遭難防止と自然保護の2つのテーマに話し合いの場となっているものです。連盟内で自然保護委員総会を開催しており、自然保護指導員の更新者や新規申請者の申請手続きを行っています。他に、山の西洋タンポポの除去作業にも参加しています。



京都 山本

大きなイベントとして清掃登山をやっている。京都北山の金比羅山というロッククライミングで有

名な岩場の下には排泄物やゴミが散らかっていて、山主の叱責を買ったことから、岳連が清掃活動引き受けています。しかしそれを知らないクライマーがいます。長年にわたり第46回の清掃登山をやっていまして、京都府の皆様にも少しずつ岳連の活動を知って頂いているかなと思います。



亀岡市で計画している球技スタジアムで計画地に国の天然記念物の「アユモドキ」という絶滅危惧種の淡水魚が棲んでいますことから、その保護にどうやって関わっていくか議論となり、これから自然保護委員会がどのようなことができるか継続していきたいと思っています。その後の経過など報告がありましたらさせていただきます。滋賀県に跨る比良山では土砂流出が起っています。鹿なども問題があります。観光開発による問題も起っています。

三重 橋本

鈴鹿峠付近の一斉清掃活動では、警察、観光協会にも協力をしていただき集まった人数は50名。ほとんどのゴミを回収。鈴鹿山系の昔のゴミを回収しました。自然保護月間清掃登山。10月から11月の2か月間行っています。これは各山岳会に任しています。各山岳会が清掃活動をした報告があります。昔はゴミがたくさんあったのですが、今は多少登山者のマナーが良くなりました。ゴミを捨てる人が少なくなって、持ち帰る方が増えたのではないかと思います。昔に捨てた空き缶などのゴミが出てきます。これからも清掃活動を続けていきたいと思っています。



三重県山岳連盟は自然保護指導員が少ないのです。連盟会員の1割にも満たないものですから、まずはこれから数を増やし、自然保護の活動も増やしていきたいと思っています。

北海道 佐藤

昨年の大会におきましては、スローガンを「山はみんなの宝だ」ということでやりました。みなさんご承知の通り、多種多様な動植物を育て、水を貯え川となり、これらを大切にしたいと思います。

タンポポの外来種問題ですけど、この10年間対策の試行錯誤をしてきましたが、解決策が見いだせないでいます。バイオなどを使うなどいろいろありますが、まだまだ不十分です。



北海道の登山道は危険が幾つもあり、一步一步を注意して事故につながらないように登山をしていただきたいと思っています。

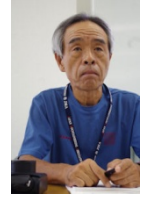
マナーの関係ですが、まだゴミの問題や盗掘などあります。目配りをしたいと思っています。

北海道山岳連盟は委員が60名になりました。連盟会員数が1970名ほどいます。山を愛する人はさらにたくさんいます。一般向けの勉強会などもやっていますが、なかなか溶け込んでくれる人は少ないです。自然保護指導員は、270名ほど登録しておりますが、中には指導員であることを意識されていない者もあり、「私、入っているの？」位の方もいます。自分でお金を払わず、会の方で払いっているのですから、そのようなことが起こります。また、自然保護指導員の腕章を着けていると、「あの山は何ですか。この花は何ですか。」と聞かれることは煩わしく、腕章をつけない人もいます。

今年の自然保護指導員の更新数は28名前後だと思っておりますが、沢山登録するよう頑張りたいと思っています。

長野 小林

昨年、北海道大会に参加したときは非常に肩身の狭い思いをしました。長野県は山岳県でありながら自然保護指導員の登録がゼロという状態が何年も続いておりまして、今年は23名の新規登録となりして今日は胸を張って、数は少ないですけどもこうして皆様の前でお話出来ることはうれしいことだと思っています。具体的な活動報告としましては、今言いました新規23名の登録ができたことです。その引き金のなったのは2月3日に行われました長山協主催の「山のセミナー」で、自然保護指導員の制度でありますとか、心がまえでありますとかいろいろレクチャーを行いました。沢山の受講者のなかから、23名が手を挙げてくれまして、申請したところ、めでたく登録ができたという状況です。そのほか活動としましては、山のトイレ問題を数年前から取り組んでおりまして、今年は戸隠連峰の一不動避難小屋の汚染が問題になっておりまして、長野市が一不動に携帯トイレブースを設けたことがありまして、若干汚染が軽減されたのではなかろうかと想定はできるのですが実際にどの程度の汚染があるのか分かりません。近くに氷清水という湧水がありまして、その水を採取して、汚染具合の調査や、将来的には携帯トイレブースではなく、本格的なバイオトイレ等の建設等を含めて地元の関係団体や行政に働きかけながら、トイレ問題について何とか一步でも前進しようと思っておりますが、実現には難しいところがあります。雨飾山これは長野県小谷温泉からのアプローチと新潟県側の梶山新湯から日帰りできる2つのルートがありますが、途中でトイレがないです。問題じゃないかとしているのですが、これも時間がかかる問題です。



10月には50回を数える八ヶ岳清掃登山に参加します。長野県山岳協会には、東北信、中信、諏訪、伊那の4支部がありまして、この諏訪支部が主体となって毎年行っている清掃登山なのですけれど、幾回かに一度は自然保護委員会も合同参加ということで今年は23人の自然保護指導員を中心として、協会の自然保護委員が参加する予定です。その他個別の活動としましては、労山やローカルの団体からなる長野県自然保護連盟や、乗鞍岳マイカー規制の乗鞍岳自動車利用適正化連絡協議会や、中部森林管理局が主管の高山植物等保護連絡協議会にも参加しています。それらで話された問題などを協会に持ち帰って、自然保護委員会とか理事会等々へ紹介して、出来るだけ自然保護に役立つ活動をしたいと活動しています。それから長野県は自然保護レンジャーというボランティア制度があり、県内の県地方事務所の管理する山岳及び観光地の自然保護などの指導や情報提供を行っており、協会会員の幾人かが活動しています。こちらは年間10日以上活動をノルマとしています。年度、末にその一年間の活動報告書を県に出すこととなります。日山協自然保護指導員の場合はノルマというものは無いのですが、長野県自然保護レンジャーの場合にはノルマがあります。当初応募して認定された方もなかなか4年ごとに更新ですが、4年目から辞めた方が結構おります。ノルマがきついレポートなどの縛りがあるために遣らない人もおりますが、日山協の自然保護指導員の場合には特にそういったノルマがない4年ごとの更新申請、意識を高めるための自然保護研修そういったものに出る程度なので、本当にそれでいいのかなとも思っております。あくまでボランティアで報酬の無いことですから、好きな山に登る、その山がいつまでも綺麗であってほしい、動植物がいつまでも今のままでいてほしい、増えてほしいという願いは誰もがもっていることなので、報酬うんぬんというよりは好きにできるために、好きな自然環境を大切にしていきたいと、「山は自然の宝」だというスローガンを自然に言えるような形で活動して行きたいと思っております。

高知 麻田

昔から取り組んでいる清掃登山について、四国の脊梁山脈の剣山、三嶺、それから石鎚山の方、石鎚山は愛媛県の領域に入ります。瓶ヶ森とかあります。足摺の方に行きますと、黒尊山系が。最近、41度の気温を記録して全国に知られた四万十川が流れています。そういう状態の中で、三嶺の方の清掃登山というのはずっと、三嶺を守る会が中心になりまして、山岳連盟も後援で参加しています。5月の最後の日曜日に定例で決まっております、40キロから50キロくらいコンスタントにゴミが出ておりましたが、最近はその、日本鹿の問題がここ5、6年から10年くらいでできてきて、その三嶺山系の源から流れるのは物部川、途中ダムが2つくらいありますけども、割合魚の多い川なのですが濁が出ています。濁るといのは、日本ジカによって地表植生が全部食べられてしまって、土砂が流出しているということです。四国の山脈は、ずっと鹿の糞が調査によって連続的に見られるようになっていきました。愛媛県との県境の方も被害を受けましたが、植生が復元されたところも一部あります。駆除をしても追いつかない状態なわけで、問題の解決というのはいえないわけです。三嶺の方では見えないけど山が崩れていくということです。台風で大雨が降ったりすると崩れていくという状態になっておりますので、何とかしてその鹿を駆除できないものであろうかということで、県も私たちは自然保護をやっている団体、勤労者山岳連盟とかいろいろな団体が集まって一斉に何とか取り組んでいけないものかということで、8月下旬には調査に入り、12月には鹿の駆除を試験的に行う予定です。人間が取り囲んで、鹿が今も状態的には駆除しているのですが、そうすると徳島県とか隣県へ全部逃げて行く、鹿が賢くなっている、それを徳島県へ逃げないようにして、高知県側で駆除できないものだろうか。その本番が来年の3月に一斉にやります。駆除をやってでも最悪駆除できないというものもあるわけですから、現状ではやってみるしかない。2年3年と続けていけば、何度か道が見えるかという状態です。そういうような問題が最近のことなのです。もう一つは、生物多様性という問題ですね。高知県も生物の多様性を維持していくために、どのような里山であったらいいか。そういう指針に取り組んでいるところであります。我々もそれに対する意見を述べたりはしていくわけですが、清掃登山などという従来型活動や、多様性・食害など現代の問題を扱う活動へ、取り組み方や関わりをどのようにするのか、全面的協力はとても無理ですので、登山者として丈に合った協力をして行かねばと思っております。来年の3月の雪山の中で鹿を駆除して、自然のバランスを保って、植物育ち、鹿も生きていかなければいけないと思います。生物多様性に関して、現代版の自然保護を高知県が当面している問題です。従来型の清掃登山も行い、自然の山での市民を巻き込んだ運動は続いています。8月の日曜日にもやりましたが、ゴミはほとんどなくなってきてはいますけれど、子供などを含めてやるのがその運動を根強いものにして行くだろというように思っています。



広島 福永

広島県山岳連盟は31団体あります。会員数は1622名、その中に自然保護の役員が6名でやっています。

自然保護指導員は87名を把握しています。昨年の北海道からの報告ですけど、今年の4月に雲月山をやる予定でしたけど、雪がたくさん降って出来ませんでした。千町原、広島県の地図でいいますと、北広島町で上の方なんですけど、島根県境のところの方の山をやっています。雲月山と千町原というところの野焼きをしています。山岳連盟の自然保護指導員とか加盟団体の方が手助けをしてくださいました。それから5月24日ですけど、比婆山という広島県東部のブナの森で18.5kmをランナーが走るのですが、広島県山岳連盟単独でやっています。そして、3年目になって今年800名ぐらいの選手の方が集まりました。山岳連盟の指導の方がお手伝いで160名集まってフォローしてくださいまして、今年も雨が降って低体温症を起こすなど、大変でした。来年ぐらいから登山道整備もそこもやろうと思っています。6月に入りまして、山の日を山岳連盟主催で遣りました。山の日には山の中に入って木を切ったり下刈りをしたりなどしてやっていますが、その中に広島町の主体で山岳連盟がいて、登山道整備とか、霧ヶ谷湿原というのがあるのですが、その再生に取り組んでいます。それから、水質検査なども行っています。前に日山協で全国の100地点というので、比婆山を第一に候補を挙げて貰っていて、それを継続的に遣ろうとしていて、それプラス、広島県の6か所を遣っているんですけども、まだ測るところがあれば広島県の各所の水質検査を遣ろうと思っています。そして、今年もこれを元に皆さんのお話を聞いたのを自然保護の担当者を集めて、研修会を開く予定です。11月16日に予定しています。そして、山のお弁当は毎年話題にしていますが、山のお弁当は連盟と広島県の駅弁屋さんとタイアップしてやっていますが、それを売って基金として、水質検査とかの費用とかを出して頂いて、活動をしています。



岡山 津島

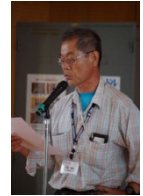
山のゴミについて、私どもは毎年毎年清掃をしています。なんか我々はゴミを拾う団体のような感じですが、一方まだゴミを出す輩が絶えない。ゴミを出したら拾うようなそんなことが繰り返されるような気がしてなりません。なんとかそれをどうにかならないだろうか。どっかなにか根本的なものはないだろうか。そういう風に私が自然保護委員になってから、思い詰めて居ったのですが、マナーとモラルの問題ですね。これはマナーとモラルこの言葉に尽きるのですね。北海道、長野山岳協会の方から山はみんなの宝ということがありましたが、私なりに一生懸命考えて昨年から活動しています。この活動は山のエコーの上さんとやり取りして、私が作りました、山はみんなの宝看板これからお見せいたしますので、見てください。昨年、2枚取り付けています。今年ごとにこれは2013年6月になっていますけど、看板を取り付けずにここに持ってきたわけです。看板を取り付けて、どうなったか、取り付けた場所、岡山県南部最高峰の507m熊山という山頂に取り付けました。年間1万2000人程の登山者がいるわけですけど、確かにそこのゴミが減った、それから私はそこの山に50回登っていますが、私が登っているときに小学校の遠足で児童30~40名がこの看板の前で唱和しているのですよ。嬉しかったですね。これだと思って、これからどんどん付けて行こう、この看板、上幸雄さんもお存じで、それから岡山県山岳連盟の方からは一応承認。私はこれだと思い込んでいるものですから、これを聞いたのが2、3年前の鳥取ですね、山はみんなの宝と聞きました。昨年山はみんなの宝だ、上さんの方から、山はみんなの宝で切ってくれと、そういうようなことで聞いております。上さんおっしゃるとおり、みんながこのキャッチフレーズ、みんながこれを念頭において、山に入れば、ゴミは減るはずですよ。必ず



ミは減ると思う。そう私は信じています。もっと活動を続けたいなそう思います。

岐阜 亀田

山岳連盟の構成なのですが、2013年4月1日現在加盟団体は16団体、登録会員数358名、自然保護委員が49名です。活動の状況ですが、大きな山というわけではなくて、自然保護の観察から夜叉ヶ池のクリーン作戦を先ずやっています。これはですね、福井の県境に夜叉ヶ池という山があるのですが、福井県側に池があって、そこにはヤシャゲンゴロウという絶滅危惧種の水生昆虫が生息しています。開山祭とか、登山ルートのパトロール、登った時のクリーン作戦ということで活動しています。次に、岐阜県にはワシタカ環境レンジャー制度があり、県岳連の自然保護委員20名が県から委託を受けて、イヌワシ、クマタカ、オオタカなどの情報の提供、山に登った時に見たという情報があれば、これを県の方に報告するというをやっています。情報件数が188件、平成25年の3月31日現在となっております。3番目の大きな活動として、岐阜市の最高峰に百々ヶ峰418mという山がありまして、過去に2度ほど火災事故がありました。看板の設置に協力するとともに、動植物の保護等を含め、パトロールを実施しています。ここには東海自然歩道というのが30年くらい前に出来た木道があるのですが、木道が朽ちて、ボルトが出ているということで、それが登山者にとっては危険性があることになり、行政に依頼して補修を依頼しています。4番目の大きな活動として、小学校の学生、小学生と一緒に登山をして、小学生と一緒にボランティア活動や自然保護の活動をしています。これは岐阜市の如来ヶ岳という一等三角点があり、ボランティアが10名、これに山岳指導員が加わりまして、安全な登山路を開通させるなどの作業を通して、お互いに自然等に触れ合うということ活動です。次に大きな活動として、山岳会加盟の会員が年間15件ほど清掃登山を行っています。自然保護はやろうと盛上げるのではなくて、各山岳会の自然保護委員が実質的に情報の交流に重点を置いています。夜叉ヶ池の件で補足しますと、池の監視は主に、池自体は福井県側にあるということで福井県の「ヤシャゲンゴロウを守る会」というボランティアが主に活動しています。水質検査もやっています。一時は個体数まで発表されたことがあります。福井森林管理所と岐阜森林管理所、保護保全をやっています。岐阜県側の登山者は年間1万5000人位で、福井県側のおよそ倍であるといこと。岐阜県が池を保全に協力してくれと山岳連盟は20年くらい自然保護活動をしています。



静岡 豊田

環境省の自然公園指導員と、日山協の自然指導員の双方を推薦しておりますが、前者43名で後者が17名といったところです。活動がいろいろと交錯しておりまして、私もそうですが、山岳会員として活動しています。南アルプスの高山植物の保護のボランティアは団体で活動しています。富士山について、ユネスコの世界遺産に登録されまして、いままでは山梨県と共同で掃除とかいろいろなことをやってきましたが、登録されたあとについては、まだ具体的な内容で行動しておりません。富士山については、下のほうに書いてありますが、鹿が多くて、非常に困っています。ボランティアネットワークの活動ですが、こういったところの鹿が多くて、防護柵を作って、設置したのですが、それにはそれなりの効果があって、ニッコウツツジが生えてきたとかありますが、毎年それらを修繕するとかあります。去年は台風が2度ほどありまして、そういうことも対応するように頑張っていきたいと思います。南アルプス



の山小屋のトイレですが、カートリッジとか洋式とかが増えてきて、従来型が2つしかございません。7月13日から9月1日の間、隣の臨時駐車場で夏山登山の登山相談所を開設しております。これには、私たちも出かけて、登山届を出してもらおうようにしているのですが、登山者の3割から5割位が書いてくれないです。これは登山者のルールだと思いますが、なかなか行き届かない。団体やツアーでもって行く方は、出したよということで、私のチェックに乗っていないものですから、今年の夏は上下で8500人を残しました。チェックしただけですよ。実際にはもっと多いわけです。話題ですが、南アルプスの地下400mにリニアが通るとということで、ボーリングが終わり、環境省と県の自然保護課の調査が終わりましたが、結果はまだ公表されていないようです。

栃木 手塚

栃木県山岳連盟の主管事業としまして、資料に記載の1番から4番までこれを担当しています。まず日光の清掃登山40回、内容をご覧のとおりで前夜祭と清掃登山、毎年同じことを繰り返させていたただいています。2番目は36回のクリーンキャンペーン、清掃登山ということですが、今年は共済がここに記載されていますように、労山と栃木県が加わりまして、山はみんなの宝といいましたが、栃木県はそれ以上に進めまして、祝日を取り入れました。6月を環境週間の延長ということで、一今年からはじめようと、80名くらいですか、国会議員にも働きかけて、進めましょうということで、参加者も例年よりも増えました。クリーンキャンペーンも実施しています。それと、指導員の研修会も毎年繰り返しています。私ども全国の総会をやっているのをマネしてまして、栃木県内で指導員にも研修会をやりまして、地区の環境、特徴を指導員の方にも知っていただこうと、そういう関係で、持ち回りで各地を回って、日山協の自然保護指導員向けに研修会を行っています。今年は7月に予定していたのですが、ずれてまして、現在11月16日の予定で進めています。日山協が公益になったということで腕章の切り替えですね、指導員の方に進行中ということで、遅れているのですが、お金を全部いただかないと申請しないということで、進めています。協力事業として、ご覧のとおり、故郷を登る栃木100名山、そのようなところ参加協力ということで、特定外来種駆除活動ということで、地元スキー場あたりではハンゴンソウの球根除去を去年からしている。今年も誰もがわかる花ということでハンゴンソウを除去しました。



(以下レコーダ不調で概略メモを記載)

山梨 磯野

自然保護委員会の活動報告をいたします。山梨県山岳連盟の主な活動としては、①5月から9月希少高山植物種調査業務のための山岳レンジャー人員配置及び実施、②山岳レンジャーの研修会及び反省会、③高山植物現地学習会、④山岳トイレ研究会(適時開催)⑤各種自然保護活動の実施及び参加、⑥自然保護に関する大会・講演会への参加等です。①から⑥の説明



南アルプスのシカの食害で高山植物は著しく打撃を受けている、楡形山ではアヤマなど植生が壊滅的であり、緊急の対応が必要である。

山形 高取

山形県、朝日と飯豊と2つの有名な山がありまして、自然保護に関しましては、飯豊については飯豊会連絡会、朝日については朝日連峰協議会があります。朝日連峰の合同作業保全についてという資料を参照ください。去年の9月29から30日の2日間に、朝日連峰の三方境というところがあるのですが、保全作業を行っています。朝日連峰は日本海に面していて、日本海からの距離は40kmしかなく、日本海からの風を妨げる山がないのでまともに日本海からの季節風を受けます。この三方境いうところも風の当たるところであります。



土砂の流出を妨げるため土留めとネットを設置しました。椰子製の土嚢袋、ネットを使用しました。麻製の土嚢袋は耐久性が低い。2年位で劣化してしまいました。保全活動に努めて行きたいと思います。

新潟 伊藤

山小屋の整備等普通にやっています。①自然保護委員研修会、②新潟県環境企画課自然保護係との懇談会、③他自然保護活動団体との共同、参加、飯豊連峰保全連絡会、朝日連峰保全協議会に参加、巻機山景観保全ボランティアズの保全作業に参加、④自然保護委員としての活動実践への取り組み、具体的には7月、栗ヶ岳において、松本清氏においで頂き、中央登山道にて予備調査を行った。⑤一般登山者への啓蒙活動。



茨城 中沢

①岳連加盟団体32団体、自然保護委員34名(10団体及び個人会員)自然保護をやっています。②茨城県にも山はあります。茨城県の北には阿武隈山系と八溝山系があり、豊かな自然に恵まれている。関東平野には筑波山と低山がある。自然環境の中で里山歩きから岩登りといってもザイル一本分なのですが、コースとしては10コース位岩登りの場所が取れるところ、沢登りも2から3時間の歩くコースもあるなど、それなりに楽しめる場所となっています。③清掃登山で、資料は筑波山にいったときの写真です。大勢の参加者とともに清掃登山をしました。今年は、全日本登山大会が茨城主催で11月に行われます。茨城県の山もいいところですので、是非いらしてください。



埼玉 岩崎

資料を読んでいただければと思います。県立自然公園の清掃登山ということでやったのですが、奥武蔵グリーンラインがありまして、車から落とされたゴミが圧倒的に多い。95%はグリーンラインで拾ったゴミで登山道ではほとんどありません。後は資料をみていただければと思います。



岩手 植田

各岳連、自然保護委員のみなさまには頭の下がる思いです。岩手山の8合目の避難小屋の管理です。登山道の整備などやっています。岩手山の西洋タンポポ、オオバコ外来植物の駆除もやっています。



福井 矢島

登山道の整備などやっています。100名山が幾つかあります。避難小屋をつくりたいということになっています。自然豊かなところに避難小屋をとということで検討材料になっています。夜叉が池につきまして、登山ブームにより夜叉源五郎の個体数が減っていることについて、岐阜県、福井県の森林管理所、環境省がタイアップをしまして、10年間、年に3回位、個体数の調査をしています。昨年の報告からみると個体数は安定してきているし、水質も良くなってきている。ただ、専門家にもよくわからないというのは、水質が良くなっているにも関わらず、個体数が増えているわけではない。この増えているわけではないのが、なぜ減ったのかがわからないというのが現状だそうです。当面の目標としましては、池の周りの木道整備が終わりましたので、池が汚れることはなくなった。池への侵入は禁止、食べ残しなどは禁止、火は使用自体が禁止。改善していけばいいなど専門部会の報告です。ヤシヤゲンゴロウが居なくなったらどうするのかということで、広野という場所で繁殖活動をしています。繁殖活動は成功しています。夜叉源五郎が池にいなくなったときには繁殖したものを返すことになっています。現状では一切繁殖したものを返すことはしませんということです。DVDで編集したものが出ています。福井県は敦賀を境にして北と南が分かれています。鹿の問題もあります。昨年、福井県で全日本登山大会を開催させて頂きました。みなさんからはたくさんの参加をいただきましてありがとうございました。



東京 小高

自然保護指導員が約250名います。この大会には16名の東京都山岳連盟の方が参加しています。活動が活発です。資料を読んでいただければと思います。カタクリパトロールを4月の下旬にやっております、カタクリの盗掘防止のためにしています。鹿が多くなりまして、防護方法なども考えています。水質調査について、毎月10か所で継続的にやっています、かなりのデータが集まっています。素人がやっていることですので、数値にバラツキがありました、公にしている数値なのか、たまたま出ていたりして、みんなで検討してなんだかの形で、できるようになればいいかなと思っています。行政か公共団体から活動資金を頂いています。情熱だけは持っていますのでこれからも続けていきたいと思っています。



神奈川 松隈

資料のとおりです。①クリーン活動、②自然再生活動、③教育・研鑽活動をしています。資料の写真のとおり、植樹活動、森林づくり、シイタケの原木づくり、シイタケの収穫の写真を載せています。山神祭、山には神様がいらっしゃるということで、精神生活に影響するのではないかとということで、尊重しつつ、文化を考える山神活動をしています。山小屋の解体などもしています。

資料の写真をご覧くださいまして、丹沢の二ノ塔というところの崩壊裸地に植生回復を目指して丹沢由来のケヤマハンノキを植栽しております。写真の白い防獣ネットが林立しているのはその様子です。この植栽は4年前から手掛け2年の試行錯誤末に、やっと活着しました。これまで、気象条件（風・寒冷・雨）のほか獣害・虫害など、山岳地の植栽の難しさを体験してきました。



徳島 藤川

徳島県山岳連盟は自然保護活動に力を入れなければならないということで、今回初めて参加させていただきました。山は熊笹が鹿に食べられてなくなる問題があります。道が歩きやすくなったことから、道がたくさんできて道迷いが起こっています。缶のポイ捨てなどもあります。五葉松に関しても食害によりなくなっています。徳島県も動いて活動しています。このようなこともあり今年には自然保護活動を頑張っていきたいと思えます。



オープン参加 井原

大阪でやっている活動については水質検査です。今年で11年目になります。大腸菌がでていところもあります。また、地域の皆様と活動をしています。子どもたちと一緒に山を歩こうと、ゴミの問題などをみんなで歩いて考えようという活動をしています。



群馬 植松

資料のとおりです。群馬岳連の自然指導員数は49名です。他の環境保護団体とも連携して、清掃登山などを行っています。自然観察会などもしています。



千葉 濱田

千葉県山岳連盟では自然保護活動が難しく、自然保護活動をするとしたら清掃登山くらいで、年に2回委員会の集まりや、岩場の清掃活動をしています。



質疑応答

1、東京都山岳連盟の石井です。静岡県山岳連盟に対して質問があります。 リニア建設について、水質の影響はどのようになっていますか。

静岡県 山岳連盟豊田です。建設会社が水質調査等やっています。

2、広島県山岳連盟の森です。長野県の山岳レンジャーについて、何名位で報酬はあるか知りたい。長野県山岳連盟小林、山岳レンジャーの登録数には約 300 名います。完全にボランティアですが。リフトなどを使うところの一部は無料です。諸費用もありません。長野県の環境保全課のホームページに登録者名簿が載っています。

3、仙波さん埼玉県山岳連盟のスコップの値段について。300 円くらいです。

4、東京都山岳連盟岡田、静岡県、山梨県の方に、富士山が世界遺産になってからの取り組みについて教えてください。山梨県は県の様子を見ながらやっています。岳連としての取り組み静岡県岳連と共同で清掃活動をしています。ここ数年はやっておりません。

徳永座長：各都道府県の発表ありがとうございました。これで終わりにいたします。利用する側、利用される側、問題はあると思いますが、自然保護運動は続けて行って意味がありますので、続けて行っていただければと思います。更に突き進んだ討論は、明日の個別セッションへつなげたいと思います。



モーニングウォーク

雨天のため野外早朝散策を取りやめ、室内にて施設内森林の樹種について、予め用意した葉の標本や写真などを使用して、廣田・紅葉委員がレクチャーを行った。自由参加ではあったが、参加者の多くが早朝から熱心に、レクチャーに参加した。



個別セッション

課題A 「利用者負担・受益者負担」について

齋藤（座長）、堀江、本村

（課題Aの討議内容については個別セッション合同討議(まとめ発表)」の齋藤発言をご覧ください。）

課題B 「自然・資源疲弊」について

西山（座長）、小高、小川

西山： 討論を始めたいと思います。自然・資源疲弊ということで、範囲が広いのであちらこちら話が飛ぶかも分かりませんが、山の問題ということで、はじめは高山植物の疲弊、鹿の食害とか、気候変動による影響、それについて話し合っていたきたいと思います。鹿のことに関しては、メディアの報道にもあります通り、現在、250万頭位鹿がいるのです。12年後には2倍近い500万頭になるということなのですけど、鹿の問題というのはどの県、各地みんな同じだと思いますけど、狩猟免許は、24年前だと29万人くらいいたのですが、3年前に19万人に減りまして、19万人のうちの12万人が60歳以上ということで免許取る人がどんどんいなくなって、現在、年間で鹿が取られているのは27万頭しかない、減るよりも増える方が多いということで、あちらこちら鹿による食害が増えているのだと思います。本来、自然保護指導員は狩猟免許でもとって、山に入って、撃つほうに回らないと数では追いつかないという状況です。端的にいうと、東京都山岳連盟でカタクリパトロールというのをやるのですが、鹿による食害、登山者が多いことへのオーバーユーズ、盗掘や踏みつけなどがあります。詳しくは小高より話します。



小高： 西山委員長からもお話ありましたように、東京都山岳連盟では約250人いる自然保護指導員と協力しまして、4月20日から5月後半まで、御前山というところは、東京都でも数少ないカタクリの群生地になっていまして、この活動をはじめた20年程前は、シーズンに大型バスで入ってくるパーティがたくさんありまして、多い日には山頂に2000人位が集まるようなことが続いたのですね。今は色々なところにカタクリが咲くようになりましたので、客の分散はされていますけど、身近な場所ということで、いまだにこのシーズンにおいて入山者がとても多いのです。山頂から15分下に避難小屋がありまして、昔のポットン式のトイレが一つあります。シーズン中は利用者ですごく並んでしまうのですね。そういうこともありまして、山頂に仮設のトイレ TENT を作りまして、携帯用トイレをPRすることが一つ、先程話題になりましたとおり、写真をとるためにカタクリに近づいて、踏みつけなどを防止するため、ロープを張っています。10年程前に山と溪谷社の環境賞というものがありました、応募したところ、B賞をいただきました。10万円の賞金ができました。それを原資にして、ロープと杭を買いました。毎年、御前山に張りまして、カタクリが咲くころはそれの整備、シーズンが終え

れば回収しています。指導員の方にもご協力をいただいています。そこで、いろいろ考えることは、気候変動でいいますと、いままで張っていたカタクリがあった場所にカタクリは咲いていません。どんどん高度が上がっています。カタクリの高度が上がっている、端的に温暖化ということが言えると思います。林床部いままで咲いていなかった林の中とか、そういうところを好んでカタクリが咲くようになりました。カタクリは花が咲くまで7年位かかるのですね。毎年、芽を大きくしていきます。そして花を咲かせます。花が高いところ、暗いところ、涼しいところに移動しているのですね。カタクリの花一つをとっても咲く場所が移動しているということで、温暖化の様相がみえると思います。昨日も話題になりましたが、鹿はカタクリが大好きみたいで、芽のところを食べてしまうのですね。葉っぱがあって、枝があるのですが、そこには何もない状況。つぼみの段階で食べてしまうのでしょけれど、現在、環境省と東京都、鹿除け対策として、ネットを張っています。その中はカタクリがいっぱい咲いていますので、鹿が食べる場所と食べられない場所とがあきらかに違っています。鹿の食害といって、御前山を例にするだけでも分かると思います。それからそこで水質調査をやっています、沢水の大腸菌だとか調査をしているのですが、人がたくさん入った、その翌月に数値の悪いデータがでるのですね。大腸菌が検出されるなどしていますから、茂みでトイレをされている方がまだまだいらっしゃるのかなと推測されています。そういうことも踏まえて、シーズンのカタクリパトロールというのを継続的にやっているのですが、自然疲弊というのがそういうことからみてもわかるものだと思います。オーバーユーズに関しても、夏は暑くていけない場所なのですが、4月の中旬から5月にかけては、入山者の9割位の方が登っているようです。ですから、一極集中ということから、沢水の汚染やトイレに並んだり、当然たくさん登山者がいますので、前のパーティを追い抜くことに、昨日も複線化という言葉も出ていましたが、登山道の道を外れて登っていらっしゃるパーティがいたり、4月後半に見られる場所だと思います。そういう意味で今日の話のたたき台としてご紹介しました。みなさんのお考えを伺いたいと思います。

西山： 地元の話でもよろしいのですが、何かニュース体験、経験しているものをお知らせいただければと思います。

山梨 磯野： 鹿の問題について、自然の問題で、オーバーユーズは人間の問題です。鹿の問題については、山梨県では鹿の問題について討論している。

西山： 高山に鹿が入って、高山植物を荒らしている例もあります。盗掘が最近には少なくなってきました。盗掘は条例等で相当厳しく罰している自治体もあると思います。いずれも早池峰山なんかで大阪大学の植物学の先生が、早池峰で盗掘しまして、盛岡駅であまりの嬉しさに見ていたら、地元の人が、100 当番して捕まったという話もあります。野草展とかそういうお店で営業的に盗掘をする人も結構多いみたいで、山屋さんでそういうことをしている人はいないと思いますが、そういうのからすると鹿の食害で影響があります。御前山のカタクリをみて、明らかに鹿の食害で全然違います。外は花ごと食べられてしまいます。全部食べるとおいしいですからね。鹿をなんとかしないと日本の山野草というのはなくなるというか、雲取山という東京で一番高い山があるのですが、そこにいくと正面に花が咲いてきれいだったのが、現在は、鹿が食べない樹木いかないという状況で、ヤナギランとかいっぱい咲いていたのに、今は見られない状況です。それは自治体がどういう風に管理するのか、

人手が足りないのか、予算がないのか分かりませんが、狩猟免許を持った人も高齢のため、撃つにはうったが鹿を持ってこられないという、今は、一部を持ってくれば、駆除料ということでいくらかもらえるというところもあるようです。それでも各県の方で地元ではこういう状況だということがありましたら教えてください。

山梨の方： 山梨の場合は、自然保護委員会でやっています、昨日磯野委員長からも発表がありました。鹿の食害がかなり増えてきました。高山帯の方もどんどん増えて行っています。西山委員長様がおっしゃっていた、狩猟免許についてですが、狩猟免許を持っているかたがいるのですが、狩猟免許の更新は非常に難しい。そして、年寄りが増えてくると、免許もとれなくなってしまいます。そのようなことで、狩猟免許の制度を緩くすれば取れやすくなって人も増えるのではないのですかね。

西山： 実は東京都山岳連盟も、専門委員が30名ほどおりますけど、昨年入った女性、仕事をやめまして、山の勉強をしたいということで、富山の山の大学みたいなものがあるみたいですが、そこに行つて、狩猟免許からなにかからすべて取るという、毎日蛇を食べながら、山の勉強をしているみたいで、熱心というか自然保護を極めたいというので、仕事までやめて行つた方がいます。我々は年なのでなかなか行けないのですが、皆様に順番にお話しただければと思います。

山梨の方(女性)： 高山植物で言えば、ラン科植物やアヤメとか多いのですが、トリカブトの芽も鹿が食べるようになりました。鹿も種類をえらばずに食べているようです。鹿の食害をなくすために、囲って、試験的にやっています。ただ、囲わないところは狙われているので、試験的に囲ってやってみるというのは遅いのですね。それよりも鹿の動きは速いので、鹿に子どもを産ませないとか、鹿の肉を流通できるようにするとか、広い目で見て行かないと個々の山でやるのは難しいと思います。長野から山梨へ来るなど各県をまたいで鹿はきます。個々の山で考えるのではなく、全体の山で見なければならぬと思います。鹿だけではなく、クマも猿も、北岳の上の方まで登ってきていますから、食物連鎖も変わってきていると思うのですね。いろいろなことが後手に回ってきているようなそんな気がします。

西山： 鹿なんかは移動範囲が広く、イノシシなどよりは被害が相当ひどいと思うのですよね。

女性： 高い山の植生が食べられてしまうと土石流の可能性もできます。早めに手当をしないと。災害にもなります。堰堤や芝を植えても、すべて鹿が食べられている状況ですと下流域の人たち、国土交通省とか環境省とか早めに手当をしないと今年の各地の災害の二の舞が起こるような気がします。

西山： 自治体も優先順位があると思います。水源林は、土砂崩れが起きないように予算がついていると思います。そういうところでないところは後回しになっている、後手になっているように思います。

男性： 鹿の駆除はしなければいけないことなのでやらなければなりません。オオカミを入れるという方法もあります。

小高： オオカミを入れるという方法について、賛否いろいろありますが、私は後立山に大学時代おりまして、その時、ウサギが増えました。ウサギを減らすために狐を離しました。そうしたら、ウサギは減りましたが、狐が残ってしまって、狐はライチョウを食べているのです。結局何かをそこから持ってくると、それは何かの天敵になってしまうという悪循環を生むと思います。よそから持ってくるというのは生態系を壊すことじゃないかと思うのです。ニホンオオカミは絶滅しているので、それに代わるものを入れたとしてもそれはどうなのか。目先のものだけを対象としてしまうと将来的にいろいろな影響が出てくるのではないかと、考えなくてはならないと思います。オオカミを入れているところもあるようで、今度その人の話を聞こうことになっていますが、連携的に一カ所の問題だけでなく、そこだけ追い払うということは、個体数が減るのではなく、別の場所が増え、種の問題を超えてもそういうことが起きるのではないかと思います。広い目で対極的に見ていかなければならないのではないかと思います。

西山： オオカミについて賛成の方はいますか。オオカミはすでに絶滅していますが。

女性： 後で人間が襲われたら困るような気がします。

西山： 取りあえず奥多摩の動物園にシベリアオオカミがいます。今度見に行こうと思います。

女性： 山里の生活環境が変わっているのではないですか。山里に犬がいたり、人がいたりすると、サルも降りてこない。山里が過疎化していることで、人がいない、犬もいない。人も山に入らない。環境が変わってきているので、人間の生活と山の環境を考えていくところが根本的なところだと思います。

西山： 昔はある程度、コントロールされていた時代があって、動物の世界でもオーバーユーズにはなっていなかったであろうと思います。今は、保護しているわけではないが、放置しているから、生態系のバランスが崩れていっているのではないかなと思っています。

男性： 鹿の問題について捕獲する方法を考えることが必要。

西山： 鹿を商業ベースに乗せて食べる方法を考えなければならないのではないと思います。お金にもなりますし、そういう施設がないので、流通経路に乗らないですね。地元では売っているけど、肉屋さんにいけばどこでも売っているものでもないし、そういう風になれば鹿は取られるのですね。自治体等でも訴えていきますけども、なかなか改善策というのは究極にならないと動かないですね役所は、林業の被害とか相当のものだと思います。

男性： 違う角度からみた時に、何千万年と掛ってできてくる自然が、植物、動物などが移動したり、ツルで移動したり、動物を利用して種を移動したり、風を利用する。そうして、今の数で保っている。数は違うけど、増える動物、減る動物、地球上から消えていく植物、動物もたくさんあると思います。

女性： 私の家は農家です、正直、うちの畑も荒らしています。そんな状況が続いていたら、干上がります。やはりバランスは必要だと思います。

男性： 埼玉県自然保護委員会で、クマや鹿が麓に降りています。オオカミを入れるということについては人的被害ですよ。天敵も必要ではないのか。

西山： あと12年後には500万頭になるという。ただ、北海道は入っていませんから、エゾ鹿は、これは日本鹿の話ですから。

男性： 群馬県の山に登りますと、鹿の頭蓋骨が多いです。

西山： 溪流を遡行していても、誤って落ちた鹿の死骸をよく目にします。

小高： 自然に淘汰されていて、気候の中で動植物が増えたり減ったりということはあったと思います。しかし、里山がこうして荒廃して行って、人間が住むこともなくなり、そういった中で人間が残した畑などの植物を食べたりして、増えて行っていることもあると思います。鹿の住むところが増えている以上は、そんなことを言うてはいられないと思います。過疎の部落というところは、豊作を放棄しました。高齢化で、自分の食べ物を作っても、鹿害があるので無駄だということで、買った方がやすい手間がかからない、生活スタイルを変えないといけないような場所というの、出てきているのです。

広島 福永： 北広島町で、山が荒れています。木を切ってそれをある場所へもっていくと、半券がもらえていろいろな商品に交換できるシステムを考えています。広島県も10年前から「山の日」を作ろうということでやっています。チケット制にしてやろうではないかということにしています。

男性： 人間を中心に考えない方がいいと思います。

西山： 鹿の食害は自治体でも今一歩対応が決まっていない。奥多摩の環境省と東京都の施設がありますが、あまり小さい話は持ってくるなど言われます。環境省の役人は1人しかいなくて、奥多摩全域、県境を持っています。日本で一番広い面積を1人で持っています。すぐ、任期で異動してしまいます。

女性： 東京都の山をお手伝いさせていただいています。御前山のパトロールを手伝わさせていただいています。新潟県上越市でもやっていますが、一という、過疎の村に、かつては棚田だったという場所に、カタクリの花がすごいのです。カタクリをおひたしにして食べたりしていました。東京のカタクリは良くないですね。寒いところは綺麗な色でよかった。東京・大阪のカタクリを温かいところは育ちにくくなっているのかなと思います。お米もそうだとはいわれますが、日本が亜熱帯化していて、北海道のお米がおいしくなっているというのは、気候変動と自然の移動になるのではないかなと思います。

ます。自然に移行していくということもあるのではないかなと思います。

西山： オーバーユーズの問題は一極集中という問題は、世界遺産などに多くあり、何とかしていかなければならないと思います。ツアー登山やトレランなどいっぺんに山に登っていることはオーバーユーズになるのではないかと思います。谷川のトレランも反対をして中止、箱根もトレランの反対をして中止になりました。走っていくことは許可しないということです。事例はあります。

小高： 槍ヶ岳の頂上直下ルート、富士山の登りと下山道は違うなど分けることも大切なのではないかと思います。

女性： トイレの問題について、オーバーユーズでは携帯トイレを持ち歩くことを義務づけることが大切だと思います。

西山： 山は自己責任でやるべきことなのに、いろいろな手すりや鎖をつけて、軽装で登山する人などが増える。山を便利にしないことも必要。

林道で、営林署で観光客のため道路を開けた。でも安全性はあるのか。

高尾山の場合は年間 250 万人が登ってくる、登山道の崩壊はありません。整備されています。トイレも近代的のがあります。

男性： 山梨県は利用者負担について、トイレ問題があります。

小高： カタクリパトロールのときに登山者にアンケートをとり、トイレにどのくらい負担応じることが出来ますかという問いに、10 日間に 700 から 800 通位の回答をいただいています。8 割以上が 100 円。北岳の小屋は 100 円から 500 円。八ヶ岳あたりも 100 円位ですかね。尾瀬も 1 人当たり平均 10 円位。雲取も年間 5 万人登山者がトイレに入るが、10 万円くらいしか入らないといっています。100 円というのはアンケートには答えるけども、入れられていないが現実だと思います。利用者負担を考えなければなりません。雲取のトイレを例にすると総工費は 1 億 6000 万円だったそうです。20 年前のことです。利用料と償却を考えると 400 円位をもらわないとなりません。

100 円は入れてくださいという活動をする 것도大切。自発的なものでも良いが、チップを払わないこともあります。

女性： トイレの維持管理はお金がかかる。任意にするとお金を払わない。通りすがりで利用の場合は払わないことがある。山荘に泊まる人もその山荘でのみしか払わない。維持管理するには管理することが大切。有料である必要があります。一人当たり 1,000 円でも良いと思います。

男性

・・・(聞き取れず)。

男性

・・・(聞き取れず)。

栃木 高橋： 那須岳、トイレを要望しています。運用面で地元では難しい。10年位解決していない。茶屋の汚物の回収が多いです。

栃木 女性： 那須の回収キャンペーンをしました。トイレがないということで、維持費、管理を誰がするのか。まだ解決策が見つからない。携帯トイレも根付いていない。普及ができるかが重要。一時間位のところに携帯ブースを作ることもあるかも知れません。早池峰とかも携帯トイレがあるので考えていかなければならないのかなと思います。自分のことは自分で処理する。

男性： ・・・(聞き取れず)。

西山： 北海道なんかは避難小屋にトイレがついています。へりで回収します。那須の避難小屋もそうなのですが、トイレのない避難小屋は必ず周りが汚物だらけになります。白根山もそうです。携帯トイレにして持ち帰るか。外国だと持ち帰る、検査もされて罰金もあります。

小高： 御前山の避難小屋ですが、いままでは自治体が管理をしていました。自治体はやりきれなくなって、今は民間に委託しています。月に2回清掃作業してもらおう。多いときは月2回。シーズン外は月1回。トイレのない避難小屋はひどい状態で、誰が管理するかということで、たまたまいったら汚くて、ボランティアも限界があります。自治体も人件費の関係で難しい。早池峰なんかもグリーンの袋をあげても、捨てて帰っていくようなこともあります。立山も7か所のトイレブースを設けたが、運用ができず廃れました。どうメンテするかということも考えなければいけません。民間の力も必要です。

男性： ・・・(聞き取れず)。

男性： ・・・(聞き取れず)。

東京 岡田： トイレの曖昧なチップ制はやめた方がいいのではないかと。

女性： トイレ使用には、お金が掛るような、思想を広めることが大切です。関係団体と協力して。

西山： その思想を広めていってほしいと思います。

広島 福永： 丹沢の小屋のトイレ、ビニールがあって、汚物は持って帰ってくださいというものがあった。習慣づけでやればよいと思います。マナーづけです。

男性： ツアーで来た方々、あまり積極的にトイレの代金を払わない。ツアーの方々にこの会議で話したことの声を届けることが重要。

女性： 山梨県では、一般公募で自然監視員があり、だいたい400人位います。清掃登山、ゴミの持ち帰りをしています。・・・(聞き取れず)。

西山： トイレ料を払えば、バッチがもらえるというのがありました。

小高： 100円、200円集まってどうするか。雲取は10万円集まって、寄付しています。メンテにお金を払えるかと思うとそうではない。ただ、有料にするのでは難しいと思います。

女性： 払えばいいのではなくて、整備のために払うという思想にしないと駄目です。

西山

山岳トイレの利用者負担は、行政にも書面をもって、要望を伝えることにしてはとも思います。

東京 岡田： トレイルランニングについて、山岳耐久レースについて、自然保護委員は反対、山岳スポーツを広めるために自然保護のことは考えていません。規制を考えるべきではないか、国立公園の特別保護地区などは考えないといけないと思います。

西山： トレランは自治体が手助けをしています。奥多摩を駆け巡りますが、私有地はたくさんあります。死亡事故も起きました。昔からの古いルートで、迂回路を作った。なぜ迂回路をつくるのか。弊害です。

男性： ・・・(聞き取れず)。

西山： 東京都のトレランは、700人から始まったのが、2500人以上になりました。収入が1レースで5000万円位になります。商業主義が入ってくると止まるところがない。

女性： 富士山もあったが賛成もしておりません。

女性： ・・・(聞き取れず)。

小高： トレランはやり方だと思います。町おこしをしてやっているところあります。どう山と関わるか。環境を守っていけるところ、自然も強いところ弱いところあります。そういうことを考えてやるべきだと思う。

東京 岡田： 山のことを考えながらやるべきだと思います。

男性： トイレの問題について、自分のものは自分で処理しなさいと言われた。最終的には個人で処理して、行政にお願いするということです。

男性： トレイルランニングを街のマラソン大会の延長でやっているというのは、初心者の発想で、山のことを分かっている人、分かっている人います。ツアー登山はマナー分かっていません。

女性： 歩くと走るのでは、登山道の負担が違います。

西山： トレランをする人もいろいろな人がいます。自然を眺めながら走る人、タイムを競う人います。

日本山岳協会にもトレランができて、どう対応するか、ガイドラインも作ると思います。東京都山岳連盟では、自然保護委員会はトレランを反対ということです。今日はありがとうございました。

課題C 「自然保護指導員の役割」について

紅葉（座長）、松隈、池谷

（一部先頭部分は記録なし、ここから録音開始）

神崎： 木を見て森を治めるとの観点で出席した。私はHAT-Jの理事長も務めており、ネパールで分別ゴミ運動、通学路整備、リンゴ園など現地の団体を支援して自然保護を行っています。



広島 森： 連盟の仕組みから自然保護委員会ではなく普及部の自然保護担当、北広島町の芸北雲月山・千丁原の草刈など、県内の六か所で水質検査も、次世代育成を今後配慮)

埼玉 池田： 年に何度か山の掃除を

東京 大島： 指導員の新規育成を担当しているがなり手が減少。敷居の低い手軽にできる指導員制度であっても

千葉 金澤： 遣るべきことや役割がハッキリとしない。ゴミ拾い・水質検査など後ろ向きの活動

岐阜 門屋： 岳連の中で位置づけが低い。

埼玉 瀬下： 中高年のマナーの悪さを正す。マナーの悪い方がとても多い

埼玉 内田： 現在のとこと、お手伝い程度の参加に過過ぎませんが、勉強させて頂きたいと思います。

新潟 伊藤： 年に2回研修会を行っている。対外的に行政と連絡を取り合っています。指導員の半数

は何をやって良いか理解できていないから、多くを取り込んだ行事展開を考えたい。

京都 山本： 京都はどこへ行っても歴史のことが出てくる。自然観察会でもしかり。歴史を通した活動を展開。トレイルコースをきれいに行っているが、トレランとの確執もある。一年間見習い期間をクリアしてから登録としている。

三重 橋本： 殆どが清掃登山という形で委員会が核となって活動。しかしながら委員は少数であるから、委員会の拡充が活性化に向けた鍵。手始めに所属クラブから指導員養成をはかっている。

静岡 豊田： 自然公園指導員も兼ねている方が多い。

北海道 佐藤： 森林がレジャー産業の買い占めを受けている。連盟会員は 2000 名近い 35 団体ですが、それぞれの地域独自のほか団体間で連携した活動もしています。たとえば登山道補修などはその例。自然保護指導員は 270 名おりますが、うち 30 名は名目だけ。自然解説など説明を求められることを嫌って腕章着用が敬遠される向きが多い。

津島 岡山： 盛り上がりには欠けるところがあります。国体競技が終わって縦走種目がなくなった頃から、連盟の眼がクライミングだけに向いてしまっている。そのような中、清掃登山や研修会を行っているが、都岳連のホームページを参考にしている。先般、指導員登録リストの開示を受けましたが、なかには物故者が含まれておりました。活動は所属クラブが主体で、ほかのクラブの関心がきわめて低い。関心を集めるため焼き肉パーティでもと考えています。

高知 麻田： 会員が高齢化にともない、次世代への引継ぎが課題となっています。現役は仕事の関係で今回のような大会には欠席を余儀なくさせられております。()

群馬 野口： 自然保護を始めて年数がたちませんが、登山道の鎖の付け替えなどで関係してきました。安全と結びついた活動をしています。

千葉 濱田： 委員会としての組織的な活動はしていません。毎年 1 月末に一般登市民を含んで県民ハイキングを行っており、その折りに腕章を付けて、ゴミ持ち帰りを呼びかけています。腕章着用は強制的に行っています。3 月末には指導員の顔合わせとして自然観察会とか講習会を行っています。個人的には、ストックの使用などを控えるなど自ら実践しています。自然を保護するとの自覚を持つために指導員になるようと考えています。

神奈川 松隈： 指導員を指導するにはということでもいつも悩んでいますが、とにかかっくにも指導員になって、フィールド活動に参加して、実践をお願いしています。

埼玉 石倉： 県立自然公園の清掃活動のほか夏には秩父で親子自然観察会などを行っています。個人的には特に指導を致すことはありませんが、登山道の目に付いたゴミの持ち帰りなど心がけていま

す。

紅葉： いろいろ話を伺って、みなさんの活動は、清掃とか登山道補修といったところが多かったようですが、見方によっては、自然保護憲章の精神とは少し異なるように思います。

活動の支障となることについてですが、私が現職のころ、犬づれ登山で指導員から一方的な注意を受けたことに対する愛犬家から苦情が多く寄せられたことがあった。あとは植物や昆虫採集の制止行為に対する苦情があった。これらは「ただ、駄目」では済まないことを指導員は理解するべきである。現職を離れ、見方も利用者の立場に変わってきた。

千葉 濱田： 対処術を学ぶことです。例えば、動物や昆虫の採集ですが、子供達がそれらに触れることはとても意義あることですから、「捕まえたら後で放してね」の一言で済むと思います。

？： 盗掘への対応。指導員は逮捕権がありませんから、丁寧に優しく対応が必要です。中には、確信的に採集している場面にも遭遇しましたが、彼らも法律的なことを熟知しておりました。高飛車に注意すると、反論も激しくなりますので、身分を明らかにして、丁寧に接することが必要とおもっております。指導員の立場にすれば何のためになりますか、そのような対処術を説明しています。

？： 権限の有無の関係なく、出来るとか出来ないということを判断すべきではありません。「登山愛好家の一人として、ちょっとおかしいので」という簡潔な気持ちで遣っています。先ほど中高年のマナーの悪さについて述べましたが、例えば、満員電車の中でストックを付けてザックを担ぐなどマナーが欠けることは常識視されているにも関わらず、熟年の紳士が堂々とそれを行っている場面にも遭遇しました。たまたまザックを背負った若者が近くにおり、若者に先に注意をしたところ、若者は黙って熟年者の方を指さし、年輩者が遣っているのだからということになりました。若者達は年輩者を常にみているものですから、年輩者には彼らの手本となる自覚があって行動するべきです。従い、資格の有無ではなく、山の先輩として、それなりの自覚をもった行動が必要だと思います。

？： 指導員の登録数の向上について、指導員のことや自然のことも熟知していないのに、指導員になるなんて烏滸がましいとの考え方がありますが、まず指導員になってから勉強することでもよろしいかと思います。基本的には仲間を増やすことが活動を活性化させる基本ではないでしょうか。(司)

紅葉： 愛犬同伴登山にいついて、注意の仕方は難しい問題かと思います。土地柄もありますが、丹沢などでは狸の疥癬病への感染がありますので、愛犬にとって有害であることを説きます。

犬は国立公園に入れてはいけないのかという点について、

？： 数の問題について 指導員の活動機会について十分な配慮がされていないので、課題でしょう。各岳連には委員会という組織があって、委員が活動しているかと思いますが、自然保護指導員についての明確な役割はありません。規程にスポーツ指導員とか自然への造詣が謳われていますが、敷居が高い。数を含めて、見直しがいるのでは。

？：活動を活発にするには、数は必須と思っています。堅苦しきの排除がひつようと思う。数の少ない団体ではやはり数を増やさないと活性化もない。

愛知 杉本：愛知は60団体があるが10団体ほどから登録があるだけで後の50団体は協力すらない。独自判断で、第二条の申請条件を緩和して実施してきている。委員会の会議では指導員の方々の代表の出席でたいおうをしている。

？：自然保護委員が指導する対象はどこまででしょうか。

松隈：同じ登山者として、自然保護を進めて行くということです。

北海道 佐藤：みんながそのような考えであれば、自然保護などということは必要ではありません。現実はそのでないから、自然保護での指導などという行為が必要となってくるのです。ボランティアであるための10箇条（規範）があります。それを頭に置きながら、持ち合わせている力量で対処が必要となってきます。トイレの問題にしろ、山で野糞をすることもあろうかと思います。野糞も昔はよかったのかもしれませんが、今では悪いこととなっています。これは地域の決めごとに従うべきかとおもいます。ストックの使用とか入山料などについて地域に応じた対応が必要かと思います。登山ではやはり地域の掟のようなことが分かってくれば良いのではと思います。指導員同士でいろいろと議論しても、話が難しくなって、悲観的な対応に偏ってしまいます。自分自身に言い聞かせてボランティアの精神が欠落してしまいいまい、安易な妥協に陥ってしまいます。ですから、そのようなことにならぬように、指導員みんなが一つにまとまって山を守ってもらいたいなと思います。

？：指導員に更新に際して、誘いを掛けたところ、いとも簡単に断りを受けてしまった。説得方法も悪かつのかも知れませんが、意識の薄れが歳とともにあるように感じました。やはり、日々の活動のなかで、時とともに薄れてしまうことがあろうかと思います。そういう場面では初心に戻ってあり方を考え直す必要もあろうかと思います。啓発活動も年月で薄れてしまいます。やはり今回模様は機会のように他からの知恵を借りて、何らかな突破口などを見いだして遣っていくことがとても大事と思います。

？：腕章を付けているから遣らなければならないとかいうわけではなくて、付けなくとも同じことを遣っている人がいることを認識するべきです。

腕章を付けると、率先して行わないといけないと錯覚してしましますが、腕章を付けることに違和感を覚える方には力仕事でも何でもできる範囲で遣ればよろしいと思います。

紅葉：結論がでないことに難しく考えることはなく、自然保護委員制度自体はマナーの良い登山者を育成するとのねらいがあったのだと思います。つまり、登山者のみんなが自然保護指導員になれば、一番よろしいのではとも思います。今はそこまで発展できないから、いくらかずつでも指導員を増やそうということではないでしょうか。少なくとも自分の所属する会では、きちっと自然保護を指導が必要と思います。

新潟： 数は無理して増やすことはないと思います。全体が高齢化してきて活力が鈍って、沈滞ムードに陥っていることが伺えます。どうかしたいと考えますが、唯一今の人数のなかで、新しい人を入れていかねばと思います。新潟では飯豊・朝日など下越地区は課題を抱えて降りますから、例えば荒廃した登山道の整備とか保全です。現地は惨憺たる状況です。30～40台後半の人が参加しています。具体的な課題があれば結構やっつけてはくれます。我々の課題としては活動の場をいかに提供するかということでしょうか。我々の方での努力が根本にあるかと思います。山を抱えてない地域は親子観察会を企画するとかべつの方法があるかと思います。

紅葉： 自然保護指導員ゼロ県の対処はどのように考えましょうか。

東京 大島： 自然保護委員（専門委員）がいてそれなりに活動ができていれば、自然保護指導員の必要性はなかろうとも思えます。要は、各団体の自然保護委員会の委員と自然指導員の棲み分けを整理してみる必要があるかと思います。

京都 山本： 近畿ですと、地区で自然保護の会合を年1回は遣っていますし、会合をおこないますと意識も生まれてきます。意見交流により、他府県の様子も分かりますし、切磋琢磨できるとの点で、得るところは多々あります。組織の基盤ができると必然的に指導員の活性化にもつながっていくといえるのではないのでしょうか。指導員に対する意識として、岳連の枠内での活動と捉える人もあり、日山協の枠での活動と捉えるひともありまちまちですから、意識の整理とともに、指導員を含む自然保護の全体組織の動かし方を考えることが必要と思います。

静岡 豊田： 今回の出席都府県を見ますと、九州方面などの参加が低調です。指導員ゼロもそのような地域ではないのでしょうか。ここで対応を話し合っても、本当にゼロ地域に伝わるのでしょうか。日山協ではその辺りをもう少し分析して頂きたい。ブロック交流も必要でしょう。

？： 相互の情報の流れ、特に地方との連携を配慮致すべきでしょう。

？： 日山協からゼロをなくすように言えばよろしいことではないのでしょうか。

石倉： 全国理事会・総会の機会を利用してゼロ県には協力をお願いしてきております。

紅葉： ゼロ県をなくすように、ブロック単位などの連携などを含め、全体組織のあり方などを検討して、情報連絡を密にしていまいろうということが本日の討議の収束と致したいと思います。

個別セッション合同討議（まとめ発表）

徳永（座長）、齋藤、西山、紅葉

徳永：それではまとめを始めます。まず、課題Aの齋藤さんから発言ください。

齋藤：それでは課題A利用者負担・受益者負担についての討議の結果をまとめてご報告します。22名程の皆さんがセッションには集まっていたかきまして、全員の方に意見を述べていただきました。



今一番新しい情報として富士山の入山料がつい最近までマスコミでいろいろ問題にされており、時期を得た問題ということになります。ほぼ各県の人に参加していただきましたので、それぞれの地域の事情なども話していただきました。結論としましては、答えをだすことはできませんが、大方の意見は、ほぼ二つとあります。大方の意見としては入山料もトイレの利用料も納めて山に登る時代に来ているということであると思います。二つの意見というのは、トイレについては必然であると、お金を納めて受益者負担であることが必然であると意見と、やむを得ないという意見、方向性としては納めるということになると思うのですが、やむを得ないということは仕方がないということでした。納める気持ちの持ち方なのですが、登山者も受益者の負担というのが要求され、世の中もそれを要求して受け入れられる時期に差し掛かっていることではないかと思えます。当然のことながら、我々だけでは答えを出せる問題ではないのですが、それぞれの事情の中から方向が出ました。以上です。

徳永：課題Aのセッションに加わらなかった人で、何かご意見がありますでしょうか。

Q：金額などについて議論されましたか。

齋藤：そこまでには行きませんでした。

Q：お金を集める体制であると、だれが集めるのかの意見は出ましたか。

齋藤：時間がなくて具体的などころまでは行っておりません。

徳永：Aセッションに参加された方でご意見がありますか。

広島 森：韓国の山に登られた方は体験されたかと思いますが、韓国の場合は自然公園の中の山は殆んど入山料をとっていました。日本円にして2～300円と記憶しています。日本の場合には誰が徴収するかというのが大きな問題です。公園の管理者など行うべきかと思えます。

徳永：入山料を払っても、本来目的の山岳自然の保全に役立たせるよう願っておりますが、そこまで至っていない例も見受けられます。

山梨 磯野： 座長の報告の中で、受益者負担もやむを得ないという件ですが、やむを得ないというのは座長だけのお話と受け止めております。負担を受け入れる時期に来ている点はよろしいかと思いますが、山には小銭も持って行きましょうということは勧めたいと思います。南アルプスの夜叉神や奈良田からの入山規制でバス・タクシー料金に上乗せした協力金100円の徴収ですが、100円ですとその程度しかできないということです。ご理解いただきたいと思います。

齋藤： ほかに何かありますでしょうか。無いようでしたらセクションAの報告を終わります。

徳永： 次に課題Bをお願いします。課題Bは自然疲弊と資源というタイトルです。

西山： 大きく3つの話題になりました。鹿の食害・トイレの負担・トレランの3つの話題が出ました。農作物や山林を荒らす被害が深刻化しているニホンジカについて、捕獲数が現状のペースにとどまった場合、2025年度には北海道を除く全国で11年度の2倍近い500万頭まで増えるとの推計結果を公表し他のつい先月のことです。この現実を踏まえ、どれだけのことができるかというお話が出まして、各地のシカの食害が出ました。今までシカが食べなかったマルバダケブキ、コバイケイソウ、トリカブトをシカが食べている時代になっているようで、シカの食圧が自分たちさえも厳しく追いつている。なりふり構わず食べている時代になっているようで、緊急の問題です。それに加え里山は荒れ放題なので、その中でどれだけのことができるかということです。そこで、まずシカ肉を食べましょうということで、そのことをPRするとともに流通をしっかりと整えていくことが必要だと、一方、東北大震災からくる放射能風評被害で食べられない地域も出ているなどいろんな問題がある中で、昔食べていたようにシカ肉を食べていければよいのではないかという意見が出ました。鹿の立場からの意見も出まして、これはシカの世界だという意見も出ました。オオカミを放したらどうか、天敵を入れろという話題も出ました。シカ問題はある県だけでやるというものではなく広い範囲で連携して駆除していく、それも殺処分だけではなく、避妊とか、薬剤とか、ただ殺せばということではない処置の仕方があるのではという意見も出されました。

A班でも出ましたトイレの問題が出ました。問題になったのは、100円・200円という負担ではとてもメンテナンスがしきれないであろうと、ただ、実際に負担したお金がどのように使われているのかが分からない段階で、費用負担に応じてくれというのはどうかというのとはどうかということで、このお金は何々に使われますということを取る段階で受益者のわかるようにしてはどうか。100円・200円という負担では徴収側の日当で終わってしまうということで、適正額については山域とかトイレの仕組みにより違うのではないかとということでそれぞれの山に見合った金額をわかりやすく示すようにしてはどうかという意見が出ました。携帯トイレを利用して用済みのものを持ち帰ることを働きかけていこうも提言として出されました。結局メンテナンスがしきれなくてダメになってしますトイレがたくさんあるので、それだと持って帰ろうということです。20年前に山にゴミがたくさんあったけれど今はとても綺麗になったように、長い時間を掛ければ自分のものは持ち帰っていくという時代になるのではないかと、長い目で見ていこうという意見も出されました。

トレランの問題ですが、実際に走る人の立場と、その環境を守る人の立場によって、意見が分かれまして、ただ単にオーバーユーズだからいけないということではなく、どんなふうに住いたらよいか

とか、どんな大会運営にしたら良いかということなど見極めて、山岳団体の自然保護としてはどのような立場を取ればよいかということも話題になりました。

どれも、結論の出ない問題ですが、皆さんの意見を集約できたかと思います。参加者は20名でした。以上でございます。

徳永：次に課題Cをお願いします。課題Cは自然保護指導員の役割についてです。

紅葉：最初に各出席者24名からどのような活動をしているかお聞かせいただきました。その中では、だいたい、どの県もみなさん同じように、自然観察会、講習会、植生保護の指導を行っているとのことでした。自然保護指導員の実際の役割はそのようなものかなと思われました。ただ、なかなか良いものだなと思われましたのは小学生を取り込んだ活動が報告されました。最近の子供たちはパソコンゲームなどで野外活動とは全く疎遠となっておりますが、そのあたりに着目して、野外に連れ出すことによって少年少女から自然保護を伝えようという活動も報告されました。あらかじめ用意した話題に自然保護指導員の活動の支障となっている点について発言を求めましたところ、資格と申しませうか、協力を求めるときにどのような権限があってそのようにすることができるのか、公に認知されたものがないので、クレームへの対応に苦慮し、「タジタジ」になる返答の場面もある、指導員としての役割を十分は対応できない時があるとの意見がありました。

指導員の増員については、指導員ゼロの加盟団体が幾つかありますが、そのようなゼロをなくし増員を図るにはということで討議しましたところ、自然保護の組織構造を明確に打ち立て、開かれた仕組みを作る必要があり、例えばブロック単位での会議などそれぞれの加盟団体の切磋琢磨できる機会を作るべきとの意見がでました。こうした、情報交流が意識の高揚につながり、自然保護指導員になったか方には自信と誇りをもって活動できるよう意識の植え込むことにつながっていくのではないかとの意見がありました。

登山者のマナー向上について、中高年のマナーが悪いとの指摘とか、動植物の採集、犬同伴登山についての指摘がありましたが、指導にあたって臨機応変で上手な対処術を指導員は学んでおく必要があるとの意見がありました。

個別セッション討議のまとめ

座長 徳永

3つの課題を分科会形式で活発な討議をいただいたのですが、3つの課題もそれぞれ違っているわけではなく共通的なところも多々あります。自然保護に関わっている集団としては、昔は山岳団体でも、クライマーとか岩登りとか国際文化とかそちらのほうが花形的存在であったのですが、今や山登りの基本の哲学は自然保護運動だというところで石倉委員長を中心にしまして、グレードがかなり上がったかと思えます。それはどういうことかと申しますと、あるセッションの討議では西日本方面で欠席の県が多いとの指摘が出ましたが、それらの地域は自然保護に切羽詰った問題がないので関心も低いのかもかもしれません。



自然の恩恵を最も享受しているのは人間だと思います。人間が自然を壊していることが非常に多いということで、例えば、道路にしても、昔は石だらけの道だったのですが、交通の便利さを求めアスファルトに舗装されてきましたが、このことで地球の「呼吸」ができないというような状況を作っています。資源を考えますと、人間の生活で石油の恩恵に頼って生活しているということが大部分でしょう。いまさら石油の要らなかつた時代に逆戻りすることはできません。ところが、石油はいつしか枯渇してしまう時があります。つまり、今ある自然を大切にすることが肝心であると考えます。ものの本によると地球自然界における生産者は植物であり、消費者は人間とか動物といわれています。人間が生産者になることは不可能ですから、いかに節約をするとか、効率よく利用することが必要です。植物とか生産者に感謝しながら消費する、あるいは暮らしていくということでしょうか。心構えが一番大切であると思います。

今回の大会は、自然保護委員総会であるということですので、山のモラルが一番大切であることは誰もが認めるところです。

先にも述べましたが、自然保護指導員に対する関心度が東高西低（北高南低）というのは、日常生活の中で植物の芽生えも時期的に遅いし大切にしなければ枯れてしまうということを経験されているからなのでしょう。

みなさんお帰りになって自然保護に対する「関心を深めていただきたい」と思います。また、今回出席のなかった隣接県にもぜひお伝え頂きたいと思います。

また、自然保護委員の腕章着用もなかなか煩わしいと思っておいでの方が多いとのことですが、それでも付けていると自助努力の切掛けとなっていくつか煩わしさも解消できようかと思えます。山に入られるたびに腕章をつけていただきますといつか自然保護大切にす意識といひますか思想をくみ取っていただければと思います。年月をかけてじわじわと周りの方々にもその意識を広めていただければと思います。

(まとめで発言された参加者の自由意見)

- ◆ トイレチップ (統一意見として決議でも)
- ◆ バイオテープの反省 (早計な判断は無用)
- ◆ 指導員腕章 (自然保護指導員は自然解説ができなくてもよい)
- ◆ シカ食害は緊急問題 (南アルプス・楡形山は時を争う採食被害)
- ◆ 自然保護委員会の使命を果たす (神崎会長)

公開イベント

小鹿野こども歌舞伎 (芸能)

小鹿野町歌舞伎保山会の指導を得て、三人吉三巴白浪 大川端出會之場が小鹿野こども歌舞伎によって上演され、好評を博した。小川町・小鹿野町からも多くの観覧があった。大会参加者入れ、会場が満員の盛況ぶりであった。

大会テーマに「文化」の一言を入れたこともあって、大会のプログラムに加えものであるが、小鹿野町をはじめ小鹿野町歌舞伎保山会の方々の格別のご協力を得て実現した。この上演で、全国参加者に対しては、秩父山麓に根付いた伝統芸能に接し、文化について肌で感じる機会となった。終演の挨拶には、参加者から出演の子どもたちへ熱い拍手が送られた。



「山はみんなの宝」憲章制定の経緯 皆さんへの期待と今後の展開 (講演)

演者の上氏は、平成 25 年 6 月 27 日に開催された「山はみんなの宝」憲章制定発表大会の仕掛けた立役者である。この憲章は、2010 年の行政事業レビューで廃止の判定が下った「山小屋トイレの補助制度」に端を発する。そのあと「山はみんなの宝」の活動がはじまり、2010 年 7 月の「山はみんなの宝」全国集会、2010 年 7 月の「山はみんなの宝」全国大会を経て、2011 年に付帯意見付きで予算復活を見た。その付帯意見は、登山者側の責任とか受益者負担など利用者側の意識改善を求めるものであった。このことを踏まえ、「山はみんなの宝」の運動は、登山者側の立場に立ったルール (憲章) 制定へと転換して、識者に意見を踏まえて 2013 年 6 月に制定となった。憲章制定に携わったキーマンから直接この制定の意義や更なる展開を伺い、これをトリガーに憲章の実践について考える機会となった。



ツキノワグマを通して見た山岳自然について（講演）

ニホンツキノワグマは日本人にはなじみが深く、ニホングマなどともいい、物語などにもよく出てくる動物である。神奈川県立秦野ビジターセンター館長でもあり、日本クマネットワーク神奈川県地区委員でもある演者が、丹沢のクマの生活ぶりや、彼らの目を通して見た山岳自然のありようを、この講演で語った。

クマの里地への出没が話題になっているが、「クマが、人里で人為的な作物に手を出さず生きてゆくことができるよう、人間の生活圏との境界をしっかりと人間側が保っていくこと、そして、もしかしたら、クマに出会うかもしれない…、そんな緊張感を持って歩ける日本の山にこそ、実り多い豊かな自然があり続けてほしい。」と、豊かな自然の日本の山々を守り続ける意味を改めて考えさせられた。



知知夫国と嶽（たけ）やま（武甲山）（講演）

日没のシルエットから、山麓の大地に厳然と立ちあがった神の住む黒い山として崇められ、優美な山容を誇った武甲山であった。地元の山岳団体を主宰する演者から、文化的・地質的な立地を対比させながら、セメント産業で経済的に潤った社会と、地下資源の採掘と台風災害を被るなどして大きく変容を遂げた山の自然保護の、両局面の中で、武甲山の保護をどの様に考えるかとの命題に対する階を求め続けている演者の境地について感銘を受けた講演となった。



ナイトフォーラム

宇宙創成から現在の日本列島まで

46億年前のビッグバンによって発した宇宙、直径10kmほどの火の玉が、小さな火の玉の吸収によって直径6400kmまで膨らみ、次いで訪れたビッグインパクト（巨大星の衝突）で地軸が傾いた。これが原始地球に四季を起す契機となった。27億年前、地球に磁場が出来、太陽風が避けられる地球をバリアーとなり、深海にすんでいた生物（バクテリア）が浅い海に進出した。海洋プレートが海溝で大陸プレートの下に沈み込む際に、海洋プレートの上の堆積物がはぎ取られ、陸側に付加したとされるのがプレートテクトニクスで云われる付加体で、日本は5億年前頃～2000万年前、大陸縁での付加体の成長で出来た。など、想像を絶する講話に耳を傾けた。

星空ウォチング

谷川岳天神平星の鑑賞会のボランティアガイドをしている講師から興味ある星の世界に夢をはせた。生憎、野外は雨天のため急遽室内に変更して、9月の星座をプロジェクターで投影しながら、「Mitaka」というソフトを使って宇宙旅行を楽しみ、宇宙に想いを馳せて自然の営みの素晴らしさを実感した。

エキスカーション

台風 18 号の通過に伴い 9 月 16 日予定のエキスカーションを大幅に予定変更した。

両神山 (中止)

高尾山

広島岳連 2 名、愛知岳連、大阪府岳連の 4 名(徳島岳連はキャンセル)の方々にはひどく感謝、感激され、こちらとしても、うれしく満足のゆくガイド、案内だったと思います。年間 260 万人も訪れる、オーバーユーズの山と超近代的な 2 階建てのトイレ(一般の家庭よりも良いかも)をぜひ体験してもらいたかったのですが、すべて裏目にでて、登山中に会ったのは、単独の登山者の 3 名のみ。誰もいない高尾山を体験できたのは嬉しいですが、トイレも誰も来ないと想定していたのか、鍵がかかっており、残念な結果となってしまいました。1 号路には折れた枝、大木が網目の様に落ちていましたが、下山する頃には、あちこちで一斉に清掃(業者もおりましたが)作業が始まり、登山路があつという間にきれいに清掃されてゆくのは驚きでした。テレビでの台風の極端な報道は、人を不安にあおるようであり見て良い感じはありませんが、今回の決断も現地に行ってからリーダー判断という事で皆さんを連れてゆきましたが、判断に誤りはなかったと、自負しております。(皆さんの協力が一番でしたが)。久しぶりで稜線の強風を(低山の山)高尾山で味わい、下山後、開いていた茶屋で(ほとんどの店は閉店)とろろそばを食べ、散会となりました。

高尾山口(10時45分) ~ 頂上(12時) ~ 12時半下山 ~ 高尾山口(13時半)

長瀬地質探勝

高知山岳連盟、三重山岳連盟、山梨山岳連盟 各 1 名、役員 7 名

9:00AM この日朝一番で県立自然の博物館で入館した一行は、館内見学で 30 分ほど時間待ちをして、9:30 から 12:00 頃まで学芸員から秩父地方の大地の成り立ちや地質構造についてレクチャーを受けた。窓の外はおりしもの台風通過で猛烈な風雨が舞っていた。学芸員の方が自ら館内見学をかっていただき、巨大サメや古代恐竜、ポットホールや紅簾片岩など展示物の解説を受けた。そのあと、ゆっくりと昼食を館内で摂り、嵐が小康状態になるのを見計らって、バスに乗り込み皆野にある前原の不整合の露頭へ向かった。

不整合とは上下に重なる二つの地層が大きな時間的な隔たりで堆積し、互いに地層が不調和になっていること。前原の不整合は、秩父盆地ができたころを物語る重要な露頭で、第三紀層が秩父帯のジュラ紀の地層を覆っている。露頭へ降り立ち、藤井謙昌(元常任委員)の説明を受けなければ素人目には判断のつかない崖地に、時の流れの壮大きさに全員が驚愕した。

9:00 県立自然の家12:30 ~ 13:00 皆野町 前原の不整合
露頭14:00 ~ 14:45 県立小川げんきプラザ(解散) ~
小川町



前原の不整合をバックに参加者



発行元

公益社団法人日本岳協会

自然保護委員会

150-8050

東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館

電話 03-3481-2396 FAX 03-3481-2395

HP www.jma-sangaku.or.jp

Mail info@jma-sangaku.or.jp